

鹿兒島県で行われた国民体育大会が全日程を終えた。青森は冬季を含めた男女総合成績（天皇杯）が751・5点となり、昨年より順位を一つ上げて40位。ただ、本大会に限れば574・5点の46位で、得点は昨年より54・5点低かった。けがや来年のパリ五輪を理由に出場を辞退・棄

総評

権した有力選手もいたとはいえ、団体戦で優勝した競技はゼロ。地元開催の国民スポーツ大会が3年後に控える中、強化策を再点検し、速やかに対応を進めるべきだ。本大会では、先行開催だったレスリングの女子フリースタイル62kg級で類家直美（長者中出、レスターホールディ

団体優勝ゼロ、夏季得点は前年下回る 強化策の再点検、改善を

ングス）が優勝。前回大会は表彰台に上がれなかった競技で、幸先の良いスタートを切った。団体優勝がゼロに終わった。バドミントンの少年男子と少年女子は惜しくも準優勝だった。

主会期に入っても個人戦は奮闘。陸上では、成年女子八幡投の村上栄花（弘前実高―九州共立大）、少年女子A3000級のルーシー・ドゥータ（青森山田高）が頂点に立った。ボウリング成年男子団体（4人）の3位、ソフトテニス少年女子団体の7位など、躍進を遂げた明るい話題もあった。他県の強豪校にサポートを受けながら強化しているとの話も聞く。

県勢の少年女子として初出場となったスポーツクライミングのボルダー種目で、関川愛音（八学光星高）・長尾怜美（平賀東中）ペアが3位入賞。成年男子カヌースラローム・カヤックシングル（15ゲート）でも矢澤一輝（西目屋村役場）が3位に入った。

一方、団体戦は活躍が期待されたフェンシング成年男子サーブルが3回戦、サッカー少年男子が初戦でそれぞれ敗

（桑田友人）